

講座⑮世界遺産講座 百舌鳥・古市古墳群の発掘調査

第1講義	「百舌鳥・古市古墳群の発掘調査」今年度の世界遺産講座について
2019年に、日本の古墳時代を代表する資産として世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群は、長年の調査・研究の蓄積によりなされたものである。古くはゴーランドによる歴史的記念物としての評価に始まり、戦後間もないころは破壊に直面する古墳を研究者や大学が調査を実施し、その成果は現在もなお貴重な資料として国内における古墳時代研究の礎となっている。近年では、百舌鳥・古市古墳群を有する堺市・羽曳野市・藤井寺市の文化財専門職員が世界遺産の構成資産となった古墳など多くの調査に携わってきた。今年度の世界遺産講座では、各自治体が行った主要な古墳の調査成果を通して、百舌鳥・古市古墳群の価値や魅力を学べる講座とした。第1回目の講義では、今回の一連の講座の趣旨や百舌鳥・古市古墳群の調査の歴史について講義を行い、一連の講義への導入としたい。	

第2講義	ニサンザイ古墳の発掘調査
墳丘長300mのニサンザイ古墳は、5世紀中葉という同時期に築かれた古墳の中では全国最大の規模を誇り、大王の墳墓と考えられます。平成24年度から4か年にわたり濠内の発掘調査を実施した結果、墳丘規模が明らかになったほか、全国初となる濠に架けられた木橋の発見や多くの木製品が出土し、巨大古墳で執り行われた葬送儀礼の一端を垣間見る貴重な成果を得ました。講座では、その調査結果についてスライドを使用し解説したいと思います。	

第3講義	百舌鳥古墳群における中小古墳の発掘調査
世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、巨大な前方後円墳ばかりではなく、中小の帆立貝形墳や円墳・方墳が多数、含まれます。それらは、巨大古墳の陪塚として造られたものもあれば、単独で造られたものもあり、状況は複雑です。今回の講義では、百舌鳥古墳群における中小古墳の発掘調査事例を紹介し、中小古墳の位置付けを考えます。	

第4講義	仁徳天皇陵古墳の新知見
仁徳天皇陵古墳は、古くから注目されてきた巨大前方後円墳だが、ここ10年ほどの間に堤の発掘調査、近代公文書の研究、石室副葬品の新発見など、新しい情報が更新されている。講義では、仁徳天皇陵古墳に関するこれまでの研究史を振り返りながら、新知見の紹介や今後の課題などについて整理してみたい。	

第5講義	はざみ山古墳・越中塚古墳とその周辺の発掘調査
古市古墳群の内、国史跡に指定されている前方後円墳、はざみ山古墳と、墳丘を失った埋没古墳で埴輪列や周濠が見つかった、円墳の越中塚古墳について、発掘調査で明らかになったことをお話しします。また、両古墳の周囲には、はざみ山遺跡があり、古墳時代が終わったのち、古代集落が古墳のそばまで広がっていたことが分かっています。古墳に近接した場所での生活の様子についても、発掘調査の成果から見ていきます。	

第6講義	墓山古墳とその周辺の発掘調査
古市古墳群の墓山古墳は全国的に見れば巨大前方後円墳と評価され、その周囲にはこれに付属するいくつかの方墳が点在しています。この前方後円墳と方墳は、「主墳」と「陪塚」といった有機的な関係、いわば「古墳複合体（Complex）」を形成しています。今回は、「古墳複合体」としての墓山古墳の意義を、世界の王墓と比較してお話したいと思います。	

第7講義	応神天皇陵古墳周辺の発掘調査成果
-------------	-------------------------

応神天皇陵古墳は、古墳時代中期を代表する古墳であり、国内でも最大級の古墳である。また古市古墳群最大の古墳であり、圧倒的な存在感を持つ盟主墳である。これまで応神天皇陵古墳周辺では多くの調査が行われてきた。そのなかでも市が実施した調査を中心に、本古墳の実態に迫っていききたい。特に古市古墳群で最も発達する外周施設に焦点を当て、読み解いていきたい。

第8講義	峯ヶ塚古墳の発掘調査～調査のあゆみと造出し～
-------------	-------------------------------

「LICはびきの」のすぐ目の前、道路をはさんだ向かい側に「峯ヶ塚古墳（みねがづかこふん）」と呼ばれる古墳があります。ふだん何気なく通り過ぎているかもしれませんが、実は今からおよそ1,500年前、古墳時代につくられたものなんです。今回は、この古墳がどのように明らかになってきたのか、調査の経過についてご紹介します。

第9講義	津堂城山古墳の発掘調査
-------------	--------------------

津堂城山古墳は、明治末年に地元の人々が発掘し、巨大な石棺が出土し、耳目を集めました。偶発的な発掘でしたが、巨大古墳の内部構造と副葬品の実態を伝える貴重な情報を供しました。巨大古墳の多くが陵墓に治定され、その実態が高い障壁に囲まれている中、津堂城山古墳の発掘資料は、いまなお、高い学術的意義が認められます。今回は、その後の発掘調査の成果も併せて、この古墳の歴史的な位置づけを試みます。

第10講義	允恭天皇陵（市野山）古墳及び、周辺の関連古墳について
--------------	-----------------------------------

允恭天皇陵（市野山）古墳は、古市古墳群内の巨大前方後円墳で世界遺産であるにもかかわらず他の巨大前方後円墳に比べてあまり話題にのぼることが少ない。そこで允恭天皇陵（市野山）古墳及び周辺の関連古墳の発掘調査の成果より、その重要性について考えてみたいと思う。

第11講義	岡古墳の発掘調査
--------------	-----------------

岡古墳は、巨大な前方後円墳が陸続と築かれた古市古墳群にあって、まことに目立たない小型方墳です。調査前この古墳は、岡ミサンザイ（仲哀陵）古墳の東に隣接するので、その陪冢と考えられていきました。ところが、調査の結果、岡ミサンザイ古墳より約1世紀も先行して築かれたことが分かり、古市古墳群中の小型古墳の評価に一石を投じることになりました。今回はその発掘調査の成果を紹介します。

第12講義	三ツ塚古墳 修羅の発掘調査
--------------	----------------------

今から47年前、昭和53年の4月、現在も語り継がれる考古学上の発見が新聞紙上やニュースで報じられた。古墳時代の運搬具「修羅」の発見である。場所は、古市古墳群の一角藤井寺市にある三ツ塚古墳の周濠である。マンション建設に先立つ発掘調査により発見されたものである。古墳築造の謎の一つとして、巨石の運搬方法がある。日本の古墳の埋葬施設には巨石により石室・石槨を築き、内部に石棺を設える構造が、これまでの調査事例から巨大前方後円墳などでは一般的なものとして考えられていたが、その石材の運搬方法は謎に包まれていた。「修羅」の発掘調査は、その謎の解明に一石を投じるものであった。今回の講座では、記録に残されている修羅の発掘調査の様子、出土した巨大運搬具の使用法の検討、さらにおよそ10年を要した巨大な木製修羅の保存について話をしたい。